

社会構成主義時代の企業研修について



浅野衣子

株式会社キャリア開発サポーターズ
代表取締役

あさの・きぬこ ●株式会社キャリア開発サポーターズ代表取締役、キャリア開発カウンセラー（JICD・キャリア開発研究センター認定）、キャリアコンサルタント、認定スーパーバイザー（日本キャリア・カウンセリング学会認定）、ナラティブ実践協働研究センター スターティングメンバー、地域若者サポートステーション事業専門委員会メンバー

4回シリーズの連載で、今回が最終回となります。第1回目は「コミュニケーションって何?」、第2回目は「コロナ禍の研修現場の変化とコミュニケーションについて」と題して、企業研修におけるコミュニケーションをテーマに述べ、第3回目は「時代の変化と共に変化するもの、変化しないもの」と題して、研修の意味や目的をきちんと伝えることの大切さをお伝えしました。

今回は変わりゆく時代の企業研修において、「社会構成主義時代」という視点から企業研修について書いてみようと思います。

「社会構成主義」という言葉はある程度浸透してきているように感じています。これ自体を説明するだけで紙面が終わってしまいかねないので、極々簡単に解説することにします。19世紀の産業革命以降20世紀は「本質主義時代」と言われ、ものごとには容易に変化しがたい普遍的な本質が備わっていると考える立場から様々な取り組みがなされてきた時代でもありました。それが20世紀後半から21世紀にかけて「社会構成主義」という考え方がインパクトを持って登場し、大きくパラダイムが変わってきました。社会構成主義の第一人者として多くの著書を発表しているケネス・J・ガーゲンはそのように述べています。

「われわれが日常、『本当』だとか『良い』とか判断するときの基準は、社会や人間関係の中に埋め込まれている」「われわれの現実感、『われわれが用いている言語体系によって導かれ、同時にそれによって制約されている』

というものである。自己と他者、そして、世界をどう捉えるかは、人々の間で共有されている言葉のやりとりや語り方の慣習によって決まってくる」(参考文献(1)13、14頁)

「社会構成主義の基礎的な考えはともシンプルなようでいて、非常に奥深くもあります。私たちが『現実だ』と思っていることはすべて『社会的に構成されたもの』です。もっとドラマチックに表現するのなら、そこにいる人たちが、『そうだ』と『合意』して初めて、それは『リアルになる』のです」(参考文献(2)20頁)

一つの例を示すと、企業研修において2000年以前は「時間のギリギリまで研修をやってください。アンケートはその後で結構です」と言われていたのが、近年は「アンケートまで記入させて時間までに終わってください」と言われるようになりました。これはある企業の例ですが、時間の概念が明らかに変化してきたことを示していると思います。すべての企業とは言いませんが、2000年以前は上司より早く帰るのがはばかられていましたが、近年では上司が「早く帰れ」と言ってくる、といった従業員の声をよく耳にします。私たちが「本当」だとか「良い」と判断する基準は、関係性の中で構築されるもので、世代や文化によって受け取っているものが異なるということを表しています。

文化と一言で表現していますが、育ってきた環境や企業全体や部署によっても文化が異なっているのではないのでしょうか。それだけに、より言葉を大切に表現したり、一人ひとりがど

のような意味でその言葉を捉えているのかに心を馳せる必要があるのではないのでしょうか。それゆえ、近年では多様性を重視するだとか、ダイバーシティという取り組みがなされたり、組織内では1on1ミーティングの取り組みがなされているのだと思います。

企業研修というと多数を対象に研修を組み立てるので「一人ひとり」に対しての働きかけができないのではないかとわれがちですが、伝える側（講師や企業）は、言葉を丁寧に、意味を丁寧に伝える努力が必要です。また研修参加者の年代がどのような文化の中で育ってきているか、何を受け取ってきたのかをある程度事前に把握し、研修中の参加者の発言に対して、その言葉が持つ意味を丁寧に語れるように働きかけることが重要なのではないのでしょうか。お互い「わかったつもり」にならない努力がこれからの企業研修には求められるのではないかと思います。そのためには対話が必要です。「社会構成主義時代」の企業研修は対話を重視した研修の組み立てが大切だと考えます。

4回シリーズで、コミュニケーションを中心に述べさせていただきました。読者の皆様の一助になれば幸いです。

※参考文献

- (1) McNamee S & Gergen K. J. 1992 年／野口、野村訳「ナラティブ・セラピー」2014年邦訳 遠見書房
- (2) Gergen K. J & Gergen M. 2000 4 年／伊藤監訳「現実はいつも対話から生まれる」2018年邦訳 ディスカヴァー・トゥエンティワン